

平成25年度研究成果 名古屋都市センター研究成果

平成25年度の研究の概要を紹介します。なお研究報告書は名古屋都市センターのまちづくりライブラリー及びホームページでご覧頂けます。

<http://www.nui.or.jp>

一般研究

研究
テーマ

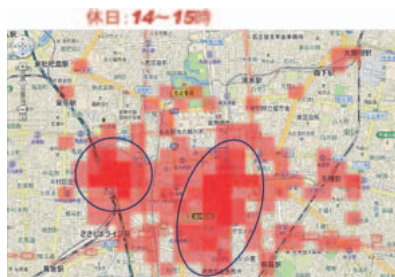
都心の歩行者回遊分析 ～ビッグデータの活用～

元名古屋都市センター調査課 阪野 武郎

本研究では、新たな取り組みとして膨大な携帯電話の位置情報、いわゆるビッグデータを活用し、都心における歩行者の回遊実態を明らかにすることで、回遊の促進とまちの活性化との関連性を考察した。

■分析1 時間帯別回遊人口の把握

都心全体の人口の動向を把握するため、都心エリアを250m×250mの396メッシュに区分して、それぞれのメッシュで流動している回遊人口の推計を行ったところ、名古屋駅周辺と栄周辺に集中する二極構造となっており、休日昼間においては栄周辺と大須は一体的な集中エリアを形成していることがわかった。



都心における回遊人口分布（休日14時）

■分析2 地区別来訪者の比較

都心が特に賑わいを見せる休日昼間（14～18時）の時間帯において、多くの来訪者が訪れる上位30地区を抽出したところ、名駅周辺が上位を占めていたが、名駅エリア／栄エリア／大須エリアで集計した結果、栄が名駅を上回る結果となった。また、名駅は狭範囲・高密度に集中し、栄は広範囲・低密度に集中していることも確認された。

30位までの合計		
名駅	栄	大須
1,033,674	1,044,791	230,022



来訪者の上位50地区

順位	平日		休日	
	地区名	夜間割合	地区名	夜間割合
1	錦(南)	31.7%	名駅三丁目北交差点	29.7%
2	名駅三丁目北交差点	31.2%	プライムセントラルタワー	27.8%
3	典厩町通(ナディアパーク)	30.7%	イオン千種	26.7%
4	錦三丁目	30.4%	駅西銀座(東)	26.2%
5	久屋と栄の間	30.3%	今池交差点南	26.2%

夜間来訪者が一日に占める割合

■分析3 天候による来訪者への影響

休日における雨天の影響を分析したところ、栄・大須エリアは大きく減少していることが確認された。名駅エリアは狭い範囲で屋外空間に出ることなく目的地を回遊するのに対して、栄・大須エリアは広範囲に回遊することから必然的に雨による影響を受けていることが推察される。

名駅エリア		栄エリア		大須エリア	
地区名	減少率	地区名	減少率	地区名	減少率
該当なし		南大津通(松坂屋北館)	△13.0%	万松寺通本町交差点	△18.3%
(名駅二丁目)	△6.3%	南大津通(パルコ・矢場町)	△12.0%	大須観音	△15.9%
		南大津通(三越・ラシック)	△11.9%	万松寺・大須301	△15.2%
		典厩町通(ナディアパーク)	△11.2%	仁王門通本町	△13.7%
		栄三丁目(飲食店・百貨八幡社)	△10.5%	大須ふれあい広場	△13.1%
		堀留交差点	△10.4%	大須3丁目(北部)・萬年寺	△12.8%
				テレビ愛知本社	△11.2%

雨天時における来訪者の減少（10%以上）地区

■分析4 回遊行動パターンの分析



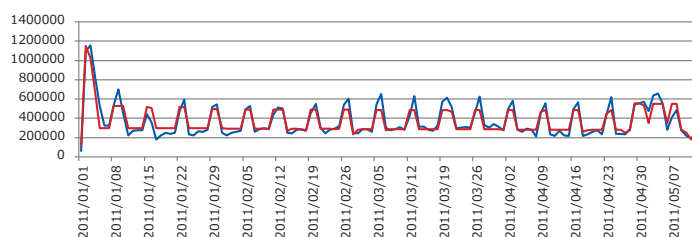
休日・昼間の都心ゾーン間の回遊性

都心エリア内に13ゾーンを設定し、ゾーン間を移動する回遊人口を推計したところ、最も回遊が活発となるのは休日昼間（14～18時）であり、名駅・栄・大須を拠点とする動きが確認された。

■分析5 歩行者天国による来訪者の誘引効果

南大津通り周辺の来訪者数と、その日の状況を示す様々な要素（歩行者天国の開催、天候、セール、イベント etc）を変数にした重回帰分析を行い、歩行者天国の開催が流動人口の変化に及ぼす効果を分析した。その結果、約4万（人・時）増加することとなり、道路の歩行者専用空間化は一定の誘引効果があることが確認された。

重回帰分析で得られたモデル式における代表的な係数	
切片	302,053
休み	199,434
降水量の合計(mm)	-1,079
歩(歩行者天国)	41,848
休日のイベント	29,156



南大津通り周辺の来訪者数（青）と重回帰式によるシミュレーション値（赤）

